

ESGAR (The European Society of Gastrointestinal and Abdominal Radiology)に参加して。

深江 俊哉

2014年6月18日から21日の期間で、オーストリア ザルツブルクで開催された ESGAR に久能由記子先生、廣瀬靖光先生と参加させていただきました。

福岡空港を出発し、羽田空港で乗り換え、ドイツのミュンヘンを経由し、オーストリアのザルツブルクへ行きました。羽田からザルツブルクまで移動は約12時間、時差は7時間、気候は福岡よりやや冷えましたが、連日天気は良く、地中海性気候のからっとした過ごし易い都市でした。宿泊したホテルは、旧市街近くのザッハー・ザルツブルクという歴史のある、チョコレート菓子のザッハートルテで有名なホテルでした。長い移動の疲れもありましたが、部屋からはザルツァッハ川と旧市街の街並み、ホーエンザルツブルク城塞の美しい風景を望め、夜到着したこともありライトアップされ非常に素晴らしかったです。普段からテンションが高めの久能先生、廣瀬先生や普段はテンションが低めの私もテンションが上がったため、少しホテル周辺を散策しました。はじめてのザルツブルクでの食事は、バルカン・グリル・スタンドという店で地元でも有名な「ボスナ」というホットドックに



似たパンを食べました。路地裏にひっそりと店を出していたので少し心配になりましたが、グリルソーセージはパリッとしていてなにやらハーブの香りがして美味でした。

ESGAR が開催された会場は映画「サウンド・オブ・ミュージック」でも登場

ホテルからの風景。最高でした。

したミラベル庭園に隣接する会議場でした。我々3人はスーツで参加しましたが、その他の参加者はほとんど半袖のポロシャツなどの比較的ラフな服装でした。

講演は教育講演が多く、比較的基礎的な内容から最新の画像診断のものまで幅広く行われていました。最初は英語での講演を聴くのが難しく、時間が経つのが長く感じましたが何個か講演を聴き、少し慣れてくるとどんどん面白くなってきました。廣瀬先生が出発前に【海外学会の面白さを体感しなさい】と言っていた意味が少し解ったような気がしました。e-poster ではポスターの閲覧回数 Top10 がランキング形式で表示されるのが面白いと思いました。久能先生、廣瀬先生のランキングを上げようと何回か閲覧しましたが、どうやら一人一回の集計であり力不足でした。その他では CT - colonography に関する演題は



会場



機会展示での一コマ。

自分自身も興味のある分野であり、勉強になりました。また様々な機器展示のコーナーもありました。英語の勉強にと何か所かブースを廣瀬先生と回ってみました(頼りの久能先生は瞬画像診断の講演を聴きに行かれていました)。相手は機器を売り込もうと聞きやすい英語で話してくれるのですが、何とか半分くらい感じとるのがやっとでした。2011年に参加させていただいた RSNA で英語の重要性を身に染みて感じましたが、3年越しの今回も再度同じ感情を抱かされました。英語は使わなければ上達しないことを痛感します。

ここでザルツブルグの紹介を少しさせていただきます。ザルツブルグは町の中心を南から北に流れるザルツァッハ川により西側に位置する旧市街と東側に位置する新市街とに分かれます。旧市街と歴史的建造物は 1996 年に世界遺産に登録されており、モーツァルトの生家や大聖堂などの有名な建造物もこの一部にあります。学会の合間をぬって旧市街へ歩いて行きました。モーツァルトの生家である黄色い外壁のアパートでモーツァルトのバイオリンや、ピアノ、作曲した楽譜、など貴重な品々を見学しました。モーツァルトの音楽を聴きながら連日の学会で少し披露した頭と心が癒されていくのを感じました。次に大聖堂を

目指しました。大聖堂は、入った瞬間に圧倒されるほど巨大なステンドグラスや、絵画の数々で、普段美術品にあまり興味は無かったのですが、ここでも心の栄養になったと感じました。その後は大聖堂そばの大きなゴールデンボールがある広場を通り抜け、ケーブルカーに乗り、町のシンボルであるホーエンザルツブルク城塞を見学しました。城塞の見張り台からの景色は大変美しかったです。食事に関してはオーストリア料理というものはなく、ハンガリーやチェコ、ポーランドなどから伝わってきた料理が多く、その中でもザルツブルグは南ドイツからの影響が強いです。これはオーストリアという国の複雑な歴史を物語っているようで何かを感じずにはいられませんでした。私は普段あまり食欲がありませんが、食欲旺盛な2人に引っ張られるように様々な食文化にも接することができました。特に名物のシュニッツェルという子牛のカツレツは日本人の口にも合うような味付けでおいしかったです。デザートはザルブルガーノッケルというアルプスの山々を模して作られたという巨大な甘いスフレは、甘すぎて食べきるのが少しつらかったです。



僕にもこんな笑顔ができました。

滞在中はレストランの予約などは自分が率先してした(つもり)ですが、最後の方は片言ながら英語での簡単なやり取りには慣れ、あと1~2ヶ月ほどあれば久能先生ばりに英語でジョークも交えながら会話ができているかもしれません。ぜひ次回は自分で演題をだして学会に参加したいと思っています。

最後になりましたが、安陪教授をはじめ医局および同門の先生方へ、国際学会への参加という貴重な機会を与えていただきましたことに、感謝を申し上げます。有難うございました。